福岡県米麦大豆生産改善速報 第２号

令 和 5年 7 月 19日
福　　岡　　県
福岡県米麦品質改善協会

普通期水稲の生育概況と対策

１．気象経過［太宰府アメダス］

	６月 21 日～７月 13 日（23 日間）				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本　年	26.2	30.5	23.1	42	888
前年差(比)	-1.9	-2.3	-1.5	42	592
平年差(比)	+1.2	+1.3	+1.1	58	252

注)平年は、1991～2020 年の太宰府アメダスの平均値。

２．農林業総合試験場における生育概況

６月 21 日～７月 13 日の気象状況は、平均気温は平年より 1.2℃高く、日照時間は平年比 58%、降水量は平年比 252%と、多雨寡照で経過した。「夢つくし」の草丈は、平年より 11%長く、茎数が 23%少なかった。「元気つくし」および「ヒノヒカリ」では、平年と比べ、草丈は平年並み～15%長く、茎数は 16～43%少なかった。「実りつくし」では、前８年と比べ、草丈は３%長く、茎数は 38%少なかった。また、各品種とも主稈葉数は平年並み～平年より 0.6 葉ほど少なく、生育は平年並み～やや遅れている。

３．当面の対策

１）水　管　理　６月９日移植「夢つくし」の出穂期は８月 10 日頃と予想されるため、幼穂形成期以降は水を切らさないよう十分にかん水する。

６月中下旬植の早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し、有効茎が確保され次第、中干しを開始する。本年は日照不足により軟弱徒長の生育で、稈が伸びると倒伏が懸念されるため、中干しを徹底する。

２）施　　肥　６月９日移植「夢つくし」の穂肥施用時期は７月 22 日頃で、穂肥は生育診断に基づいて施用する。葉色が低下した状態で出穂後に高温が続くと白未熟粒が発生しやすくなるため、気象条件等により施用が遅れる場合でも、７月中に穂肥を施用するように努める。

３）病害虫防除　いもち病やウンカ類、コブノメイガ、カメムシ類の発生に注意し、ほ場での発生状況を早急に確認し、適期防除に努める。また、いもち病の常発地では、必ず初発時に防除を行う。葉いもちが多発した場合は、穂肥の施用量を減量する。

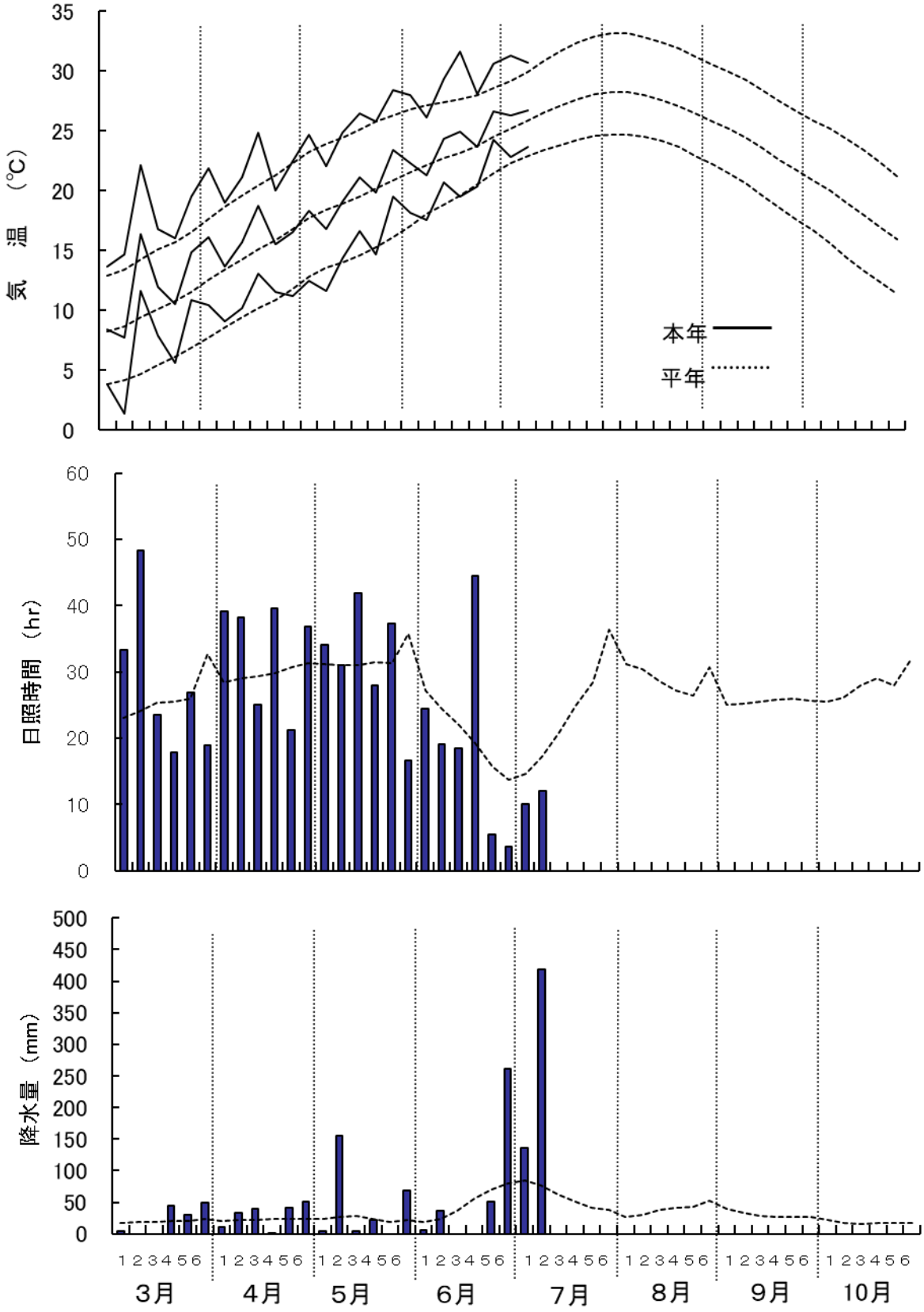
４）雑草防除　　雑草の発生が多いほ場では、中後期処理除草剤を処理する。

除草剤は「普通作雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

４．農林業総合試験場における調査成績

調査場所	移植期	品種	年次	移植期			7月14日		
				苗長 (cm)	苗齢 (L)	乾物重 (mg/本)	草丈 (cm)	㎡当たり茎数 (本)	主稈葉数 (L)
農産部	6/9	夢つくし	本年	11.0	2.4	13.0	72	356	10.0
			前年比（差）	102	-0.1	80	107	60	-1.5
			平年比（差）	100	-0.3	80	111	77	-0.3
	6/21	元気つくし	本年	12.5	2.5	16.0	56	269	8.0
			前年比（差）	92	±0	109	105	60	-1.7
			平年比(差)	94	+0.1	105	115	84	-0.6
		ヒノヒカリ	本年	11.0	2.8	13.7	46	279	8.1
			前年比（差）	102	±0	109	103	56	-1.7
			平年比（差）	100	+0.1	95	112	83	-0.6
筑後分場	6/21	元気つくし	本年	12.5	2.9	23.0	47	233	8.3
			前年比（差）	103	+0.1	121	92	50	-1.4
			平年比(差)	97	+0.3	142	98	57	-0.3
		ヒノヒカリ	本年	10.7	3.0	17.0	43	289	8.7
			前年比（差）	103	+0.2	99	97	55	-1.0
			平年比（差）	96	+0.2	108	103	64	+0.1
		実りつくし	本年	11.2	2.8	21.0	50	246	8.8
			前年比（差）	88	+0.1	104	97	48	-1.0
			前８年比（差）	88	+0.5	119	103	62	+0.2

注 1）平年値は過去10か年の平均値。
2）この値は暫定値で、今後変更することがある。



2023 年（令和５年）夏作期間の気象（太宰府アメダス）